



# 150年の歴史と これから



札幌市消防局長 村井 広樹

札幌市消防局は、昨年、明治5年（1872年）の中川組を結成した創始から150周年を迎え、これを記念し令和5年2月に「札幌消防150年の歩み」を発刊しました。

これまでの沿革や取組みなどをまとめ、明治から令和へと脈々と受け継がれてきた先人たちの思いを確認することができる内容となっています。

札幌市の発展とともに、消防局の組織、事業なども拡大、発展を遂げており、これも先輩方の大変な苦勞の賜物であることから、我々も引き続き、この組織を次の時代に進めるため、改めて札幌消防の一員であることに誇りを持ち、消防職団員が総力を結集して様々な課題に向き合い、市民の生命・身体・財産をしっかりと守り続けたいと考えています。

ここ3年余りのコロナ禍においては、消防という仕事柄、全国どこの消防本部においても、疲弊する中、身を粉にして対応していたのではないかと感じています。

まさに非常事態であり、その都度対策を練っては改善、調整する繰り返しでしたが、特に救急要請の逼迫時には、全ての機材、人材を使っても要請に追いつくことができなくなるなど、本市としてもこれまでに無いほどの厳しい状況を経験したところです。

今後、また起こるかもしれない感染拡大期には、これまでの経験を活かし労務管理も含め万全の体制で臨みたいと考えています。

火災現場活動においては、火災件数も減少傾向にあり益々現場経験が減ってきていることから、職員の受傷等の事故発生を心配しています。

このため本年4月、消防局長に就任するにあたり、職員に対し特に指示させていただいたことが「安全管理の徹底」です。

札幌市消防局では平成9年に殉職者が発生した事故を最後に25年以上同様の事故は発生していませんが、これまでの受傷事案などを教訓として、自分達の隊の活動に置き換え、危険把握、危険回避能力の向上に努め、今一度安全管理の徹底に職員一丸となって取り組むよう指示させていただきました。

現在札幌市消防局では、「火災対応力強化事業」として札幌式水力換気ノズルと赤外線カメラを効果的に活用する消火戦術の確立を目指しており、これは、水力換気ノズルにより、屋外に向けた放水に伴い発生する気流により、煙や熱を屋外に排出するとともに、屋内に向けた放水によりフラッシュオーバーを抑制して建物内の活動環境を改善し、併せて赤外線カメラにより延焼方向や延焼範囲などの状況を確認し対応に当たる戦術で、消防隊員の安全を確保しつつ、迅速な人命救助・消火活動につながるもので、今後、消防隊全隊への配備を進めていくこととしています。

最後に、本年8月25日（金）、札幌市において「第51回全国消防救助技術大会」が開催されます。第51回大会のスローガンは、「TOP OF RESCUE ～北の大地での挑戦～」であり、本大会を通じて、各隊員が救助技術の頂点を目指すという熱意あふれる志と、17年ぶりに北の大地・北海道札幌市で開催されることを表現したものです。

出場隊員をはじめ、本大会に関わる全ての皆様にとって、意義深く、記憶に残る大会となりますよう札幌市消防局一丸となって、お迎えいたしますので、皆様の御来札を心よりお待ちしております。

